令和６年度第１回原村美しい村づくり推進委員会
会議録

と　き：令和６年４月 25 日（木）
午後７時 00 分から午後８時 30 分まで
場　所：原村役場３階講堂

出席者　小松委員長、八柳副委員長、佐宗委員、小倉委員、松村委員、半田委員、平林委員、時田委員、金子委員、
事務局　小池課長、清水係長、土橋主任、内田隊員、和田主事
欠席者　宮坂（早）委員、田中委員、野明委員、行田（一）委員、中村委員、行田（正）委員、菊池委員、平塚委員、宮坂（美）委員

１　開　会（午後７時 00 分）
（課長）

２　あいさつ
（委員長）　前回皆さんとお話いただいたご意見を基に作成している提言書について意見を取りまとめる。

３　協議事項
（１）「 美しい村づくりに関する報告と提言　（案）　」について
（委員長）　この提言は来年度以降の事業について委員からの意見を、村長に向けての提言委員会としての提言という形で文書化しているもの。
（提言書案の説明）
意見等はあるか。
（委員）　この委員会はこの人数で委員会として成立するのか。
（事務局）　成立についての取り決めはないため問題ない。
（委員）　公募委員の増強を行いたいと書かれているが、前回は人数を絞ると協議したが。
（事務局）　２年間引き続き委員の選出することが難しい団体からの委員を絞り、公募委員を増やす方針で考えております。
（委員）　村内事業者との連携とあるが具体的にはどういうことか。
（事務局）　例えば地域おこし協力隊のネットワークの中で、返礼品を出すときに原村の施設に泊まることが返礼品となった例があります。そのような関わり方を今後のやり方の１つとして考えています。また、協力企業としての登録も可能なため、協力企業を増やせば村全体として盛り上がると考えています。
（事務局）　さらに、これは希望として聞いていただきたいのですが、マルシェにも事務局だけでなく他の団体や民間の方を巻き込んで実施したいということも考えています。
（委員長）　委員会の中で出てきた実行できるアイディアを事業者と連携して形にしていきたい。

（委員）　全体的な話ですが、１年間この委員会で行ってきたことをまとめた内容を提言するということだが、このような話は今までにもあったということなのか。
（委員長）　委員の皆さんからの意見をどのようにして形にするのかということは、私と事務局で進めた話である。
（委員）　そのようにすると実現性は高いかもしれないが実現できるものが限られてしまうのではないか。もう少し大まかに考えてもよいのではないか。
（事務局）　これまでは、できたらよいことを語ることのみで終わってしまったので、それよりも現実味を帯びたものにするということを踏まえています。
（委員長）　委員会の報告を聞く場ではなく、実際に委員として活動を行い、活発な委員会にしたいという意見をもらっており、抽象的な提言にしたくないと考えている。
（委員）　具体的すぎて私たちが議論した内容ではないことが書かれているように感じたので、大枠のみ決め、後に議論して詰めた方が良いのではないか。
そのようにして議論の余地を残せば全体的な内容は良いと思う。
美しい村づくり推進委員会の体制についての３つ目の項目は今まで議論されていないのでは。
（委員長）　委員の任期途中での交代のところか。
（委員）　そうです。
（委員長）　その部分については確かに必ず任期は２年間という部分は議論されてきていない。しかし、これまで任期途中に新しく委員になった方々が、いままで何をしてきたかわからない状態で苦労していた。このため、委員全員の任期を統一した方がまとまりモチベーション向上にも繋がると事務局としても望ましいのではと考える。
（事務局）　３つ目の項目は事務局案のようになっているため、省略するかあくまでも事務局の意見として提出するのも良いと思いました。
（委員長）　記載するとすれば、途中で委員が変わることに対する委員会としての問題点の部分かと思う。

【委員から一言】
（事務局）　今回が皆さんの最後の任期となりますので、提言に関する意見だけでなくこれまでの感想も踏まえて一人一言ずついただきたいと思います。
（委員）　村長に美しい村の活動にもっと出てもらいたい。現在は村長の活動や方針が見えにくい。特に子供たちに美しい環境を残してほしい。また、環境に予算を充てて子供たちに良い体験や知識を提供し、将来的に村への愛着を持ってもらいたい
（委員）　地域の子供たちが関わる活動が減少している。地域の文化や伝統を守り、次世代に引き継いでいく取り組みをしてほしい。
（委員）　東京で出店するマルシェイベントに参加した。原村だけではなく色んな地域の活動や協力の熱心な活動に感銘を受けた。このような研修の機会にもっと委員が参加することが大切ではないのか。
（委員）　これまで美しい村を築いてきた人や原村の美しい環境に着目して欲しい。
また、村をつくる人たちを達人として、いろいろな分野で達人がいればその集合体として原村の美しい村づくりが進むのではないか。
（委員）　今年は鏝絵の活動を行うが、縄文文化や固有種の推進などにも興味がある。提言したことが何らかの形になって欲しい。
（委員）　美しい村連合への加盟を検討していた際、美しい景色や星空・プラネタリウムについての話を美しい村連合の審査員にしたところ、そういうことではなくぼろ機織りや鏝絵のような人の営みが大切だという話を聞いた。元々ぼろ機織りや鏝絵のことは知らなかったが、今回ぼろ機織りのワークショップに参加してはじめて

関わった上で、そのような活動をこれからも継承していきたい。

（委員）　委員会や村として美しい村とはこういうものだというわかりやすいワードがあると良いのではないか。

（委員）　木が折れていて道に出ていたり、雑草が生い茂っていたりするような景観の改善の方に目がいく。もう１回訪ねたいと思えるような村づくりを目指してほしい。

（委員長）それぞれの委員が思う美しい村というものが異なるのでそれらを議論したり、自分の思う美しい村づくりに委員を巻き込んだりすればよいのではないか。

（事務局）ご意見ありがとうございます。このような話を初回の委員会にてやればよかったと思いました。事務局の立場としては、３つの地域資源の推進を仕事上行わなければならないので、それはご了承いただきたいです。一方、３つの地域資源の推進しか行わないわけではなく、皆さんのおっしゃる固有種や環境の話など、美しい村というのは色々無限にやれることがあると思いました。また、事務局側の専門外のことを推進することは難しいため、そのような時に委員の皆さんが先生となるようなことを次期の委員にはお願いしたい。ただお願いするのではなく、委員の皆さんを巻き込んで活動する雰囲気を事務局側が作っていかなければならないと思いました。最後に次年度は美しい村とは何かという講座や連合の審査員をお呼びして講義してもらうことを最初に行った上で視察に行くことなどを考えています。

（委員長）提言書に関しては再度案でまとめ、メール等で皆さんに共有して意見を伺います。

４　閉会